

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2894700018 | | |
| 法人名 | 有限会社 富士建設 | | |
| 事業所名 | グループホーム ありがとう | | |
| 所在地 | 兵庫県美方郡新温泉町七釜329-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年1月17日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年2月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.wam.go.jp |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人CSウオッチ |
| 所在地 | 兵庫県明石市朝霧山手町3番3号 |
| 訪問調査日 | 令和2年2月4日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、自然豊かな山、川、海、に囲まれております。又施設の風呂は地元の自慢である七釜温泉を引かせて頂いて、利用者様には体に良い温泉入浴を日々楽しんで頂いております。スタッフも開設当時より勤めて下さっている方々が多数いて利用者様とは顔なじみの関係を築いて下さり利用者様にとってより良い方向を常に検討しケアにつなげて下さっています。当施設のアピールポイントは良いスタッフが揃っている事です。施設はスタッフで決まるといった観点から、スタッフ同士がお互いを高めあって良いところを評価し合う事で各々がケアに自信を持って取り組んでおります。利用者様の各々の希望や出来る事出来ない事をしっかり見極め出来る限り希望に沿わせて頂き、出来る事は意欲を持ってして頂き、時にはいざこざもありますが、ワイワイ、がやがや云いながら日々を過ごして頂いております。

【優れている点】・新温泉町七釜温泉地区内に立地し、施設内風呂は温泉を引いている。・職員の定着率は高く、きめ細かいサービス支援を行う体制ができており利用者・家族に喜ばれている。
【工夫点】・外出は本人の入浴のない日曜日のドライブなど短時間でも外出できる機会を設け、寒い時期など外出が減少し、活動の機会として昼食前には歩キング体操を事業内で取組み本人の状態に合わせ支援工夫をしている。・食事は利用者にとって力の発揮や参加、関係づくりと重要な位置と認識し、見守りや声掛けが在れば皮むきや食器拭き等その方がやってみたいという前向きな意思や気持ちを引き出す工夫をしている。・2日に1回入浴したい日に入れるよう個々に支援し、重度化に伴い職員二人体制対応や入浴拒否のある方には異性職員を上手に配置し、言葉がけや対応の工夫など心情に

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 朝の朝礼の後、理念に沿った心構えで1日ケアにあたって頂くようにスタッフ、利用者様と理念を唱和させて頂いて仕事に取り掛かっています。 | 朝礼後1階共用室壁に貼っている事業所理念を一部利用者と共に唱和し、管理者と職員は理念を共有した実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的ではないが地域の方々との交流に努めています。 | 事業所として地元自治会に入り、又運営推進会議には、地区長、民生委員参加で地域情報等入手し、自治会主催の盆踊り、公民館活用の秋祭りの獅子舞、認知症カフェ参加、地区温泉組合主催の災害訓練等に利用者と共に参加し、地域の一員として交流に努めている。 | 年間行事計画を明確にし、地元地域に向けた公開配布や認知症理解や支援方法等の発信による交流工夫が期待される。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 事業所内では取り組んでおりますが、地域に向けての取り組みは出来ていません。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では報告事項の後色々な立場での意見をいただいて現場に活かしてまます。 | 会議には、地区長、民生委員、包括支援センター、家族会代表が参加し、定例報告後、事故発生防止等意見交換し、指摘意見等はサービス向上に活かしている。 | 事故再発防止は必須と共にヒアット予防策のまず提案数向上の見える化等の工夫推進が望まれる。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 連絡は密には取れてませんが、必要に応じて相談報告はさせて頂いております。 | 市町村担当者とは、顔なじみでもあり、事業所実情やケアサービスの取り組み現状等必要に応じて相談報告をしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 危険防止の為玄関の施錠はさせて頂き家族様にも理解をさせて頂いています。身体拘束に関しては一切しないケアに努めております。 | 特に重離床時のケア対応時に留意し、何が拘束に当たるのか等ミーティングで職員理解を図り、ケア努めている。玄関前は段差があり特に冬場は雪等あり、危険防止として日中施錠をしている。 | |

| 自己 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設内において虐待というような事が無いように、注意を払い防止に努めています。 | 管理者及び職員は、虐待防止にミーティングで意見交換し、スピーチロック等事例をあげ注意、関心を高め防止に努めている。 | 身体拘束、楽隊防止、権利擁護等年間研修計画を明確にした防止等への更なる共有推進が期待される。 |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 個々の利用者さんの必要に応じ関係者様に情報を提供させて頂いております。 | 現在成年後見制度活用者はいない。利用者の必要に応じ権利擁護に関するパンフレット等関係者に情報提供を行っている。 | |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結時にはゆっくり説明をさせていただきます。またその後でも分からない事等を遠慮なく聴いて頂くようにお伝えしています。 | 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、関心事の看取り時は事業所では実施していません。従って医療機関、特養等情報を提供し理解・納得を図っている。 | |
| 10 | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見・要望等を遠慮なく伝えて頂く方法として玄関に意見箱を設置して書いて入れて頂くようお願いをしています。 | 運営推進会議に家族代表の参加や面談時等や玄関に意見箱を設置し、積立てし慰安旅行等掲示し、実現に向け検討推進している。 | |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議を定期的(2カ月に1回)又は必要に応じ開き職員の意見、提案を聴く機会を設け環境の整備に努めております。 | 2カ月に1回の代表者参加の職員会議やミーティング等で職員意見、要望を聴き、スタッフカンパによる予防ワクチン接種推進や猫を飼い、利用者に喜ばれる等運営に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員向けのアンケートや個人面談等をもうけ個々の思いを聞き取り職場環境の整備に努めております。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員のスキルアップのために必要に応じた研修に参加してもらって仕事に活かしてもらっています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部慣習の中で同業者さんとの交流を深めて情報交換をして頂き仕事の向上に努めて頂いております。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居時の聞き取り要望をサービス計画に反映し状況の変化があればその都度検証し計画を変更しています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所時の聞き取りの中で聞かせて頂きますが、その後も電話、又は来初頂き何うように努めております。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | サービス計画を作成する段階で電話等により聞き取りし、その時に必要なサービスを計画にあげさせて頂いております。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 理念にもあがっておりますが、共に生活する人というような信頼関係を持ちながらケアにあたっております。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 全ての家族様ではないですが関係を築けるように努めております。 | | |
| 20 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人様が馴染みの人との関係を維持出来る様に努めております。 | 昔から利用している床屋さんに行き続けている男性利用者も数名おられる。「住み慣れた家に戻りたい」との要望で午後からの数時間を職員の送迎で家に戻られ方、一人ひとりの生活習慣や想いを尊重し継続的な交流が図れるように努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 相性もありますが、話が合いそうな人、顔見知りかも知れない方同士の交流に努めております。 | | |

| 自己 | 者第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所されてからも折に触れてお会いすることがあれば本人様の様子を窺ったり、面会に行かせて頂いたりしています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 施設として出来る範囲内で希望、意向に沿えるように努めております。 | 本人がどこでどのように暮らしたいのか、何をしたいのかを理解するために日々の関わりの中で一つひとつ丁寧に検討している。昼食後のひと時、お部屋で一人で過ごしている時間帯などを活用し、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 在宅生活の時の事や前施設での様子をしっかりとリサーチさせて頂き現生活に活かしております。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の利用者様の状態に応じた過ごし方をして頂くように努めております。 | | |
| 26 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人様がよりよく生活して頂くために出来る限りの要望にお応えするように努めております。 | 利用者一人ひとりの生活リズムを理解し行動や小さな動作から感じ取り把握している。身体状況の変化から食事や座位の状況、排便コントロールに関するケア検討や話し合いなど職員会議等で職員間で意見を出しケアの方向性を検討している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個々の様子もしっかり記録し、注意事項、変わったことがあれば、申し送りノートに記載しスタッフ一同が勤務前に目を通し把握に努めております。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個々の要望、希望は十人十色ですので100%は出来ないにしても出来る限り柔軟な支援を心がけるように努めております。 | | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町の図書館、行楽地、海、山、へ出掛けたり、認知症カフェ等の参加を利用者さんと積極的に参加しております。 | | |
| 30 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 施設の協力医院以外、特に町外の医療機関を希望される場合は基本家族対応をお願いしています。 | 地域の病院や公立病院等本人、家族の希望するかかかりつけ医での医療が受けられるように家族と協力しながら受診している。公立病院では22時までTELでの相談ができる。病院関係者と連携を図り適切な医療につなげていけるように努めている。 | 体調や認知症による症状の変化など早めに医療に相談し対応策の検討はとても大切です。アドバイスできる専門医など連携していきましょう。 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 個々の利用者さんの訴えをお聞きしてスタッフ間で相談し必要に応じて協力医院に相談し、適切な受診につなげております。 | | |
| 32 | (15) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院が発生した場合お見舞いに伺い、利用者さんが認知が進まない様に施設でのお話をしたり、詳しい病状は家族さんに電話等にてお聞きし状態の把握につとめております。 | 医療機関に対して入院の目的を早く達成できるよう、情報提供書を行う。なるべく混乱が少ないように本人の普段の状況や特徴、支援方法など詳細を提供している。病院に見舞うようにして家族や病院関係者と共に回復状況等を密に情報交換し速やかな退院支援に結び付けている。 | |
| 33 | (16) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した時の備えとして特養の申し込み、又協力医院への相談を状況に応じてする様にしています。 | 事業所としては口から食事が摂れない座位保持が困難な状態時に主治医に相談している。重度化した場合の行先については本人にとってどうあったらよいかの視点で慎重に検討している。本人、家族の意向を踏まえ、医師と連携を図り、安心して納得した最期を迎えられように取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救命救急講習に申込みいざといったときに備えて訓練をして頂いております。 | | |
| 35 | (17) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地域の防災訓練に利用者さん、スタッフで参加し、災害の時に備えると共に、施設の状況を踏まえた避難の仕方を全スタッフで共有しています。 | 年2回内1回は消防立会の防災訓練をいずれも夜間想定で実施や、地域の防災訓練に利用者と共に参加し、避難方法を共有化し地域消防団とも協力体制を築いている。備蓄は特に準備していない。 | 食料保管場所等活用し、災害備蓄用品及び管理表作成、明確な整備が望まれる。 |

| 自己 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 最も大切な部分では有ります。状況によっては、実際難しい場面もありますが、なるべく心がける様にしております。 | 援助が必要な時もあからさまに介護したり、誘導の声掛けをして本人を傷つけてしまわないよう言葉かけに配慮している。年長者としての敬意を払い、馴れ合いの中でも本人を尊重する言葉かけをするように努めている。 | 利用者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねるものになっていないか事業所として確認する(話し合う)機会を持ってみてはいかがでしょうか？ |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 思いや希望をスタッフに伝えてくださってますし、自己決定も尊重するよう努めております。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ある程度は勤務の流れもありますので日程にそった過ごし方をして頂いてますが、利用者さんの希望に添わせて頂いています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自立度によって異なりますが、身だしなみ等は、利用者さんにお任せしています。 | | |
| 40 | (19) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 出来る方には出来る家事、作業をして頂き、機能、意欲の向上に維持に努めています。 | 1か月メニューは担当職員が作成する。食事は利用者にとって力の発揮や参加、関係づくりと重要な位置にある。見守りや声掛けが在れば皮むきや食器拭き等の方がそのことをやってみたいという前向きな意思や気持ちを引き出し活かしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士は居りませんが、スタッフが季節に応じた家庭料理のメニュー作りをしていて、利用者さんもいつも”美味しい”と言って食べて頂いております。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、特に就寝前の口腔ケアは、誤嚥性肺炎の素にもなりますので、しっかりケアに心がけてもらってます。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を確認し時間間隔による誘導、もしくは行動の変化(徘徊)をみて誘導をさせて頂いております。 | 一人ひとりのサインを全職員が把握し、トイレでの排泄を可能にするために、「行きたいときにトイレに行くことができる」よう常に見直している。本人の生活リズムに添い、利用者の様子等から敏感に察知し、身体機能に合わせて手を差し伸べている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘ぎみの方は朝いちばんの冷たい牛乳を飲んで頂いてそれでも排便が無いようなら下剤を飲んで排便を促しています。 | | |
| 45 | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本一日置きの入浴をさせて頂いて余裕があれば、希望に応じた対応を心がけております。 | 2日に1回入浴したい日に入れるよう個々に支援している。重度化に伴い職員二人体制で対応することもあった。入浴拒否のある方には異性職員を上手に配置し言葉がけや対応の工夫などで心情に察した配慮で安心感をもってもらう工夫をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | その日、その時々に応じた対応をなるべく心がけております。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者さんの服用薬をユニットごとの一覧表をもうけユニットのスタッフが常に見て把握出来る様に努めています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ひとりひとりの嗜好、趣味などをお聞きし出来る事は希望に応じて頂くようにしております。 | | |
| 49 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ひとりひとりの希望に沿った行きたい場所(時には自宅)に可能な限りお連れさせて頂いております。 | 外出はその人らしく暮らし続ける支援のために重要であり、本人の入浴のない日曜日のドライブなど短時間でも外出できる機会を設けている。寒い時期など外出が減少し、活動の機会として昼食前には歩キング体操を実施し事業内での体操に取り組んでいる。本人の状態に合わせ支援している。 | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 可能な場合、お金が手元になれば、落ち着かない等の場合を除き所持金は持ち込まないように入居時お願いしています*利用者さん同士の貸し借りによるトラブルが絶えないので | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族に対するお手紙、電話などを利用者さまに積極的にして頂くように促しております。 | | |
| 52 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間ではみなさんが気持ちよくすごして頂くように常に清潔にし、心地よく過ごして頂く様に心がけております。 | 共用の空間は利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないよう配慮し、壁には生活感や季節感の作品等取入れ気の合った利用者同士が気持ちよく過ごせる工夫をしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | とても狭い施設なのですが、その上で1人になりたい時に過ごして頂く空間をもうけさせて頂いております。 | | |
| 54 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に使い慣れた物、馴染みの物をお持ち頂くようお願いしていますが、家族さんの判断で新たに購入されて持って来られる方、必要最低限の物しか持って来られない方もありますが、施設はあえて強要はしていません。 | 入居時に使い慣れた馴染みの持ち込みを勧めている。利用者・家族が使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ひとりひとりの残存機能を出来る限りリハビリ等で維持して、自分でできる喜びを感じて頂きながら生活を送って頂いております。 | | |